

——もっと知りたい—— 崖線の緑をまもるために できること



調布市の北西部から南東部にかけて大きくうねるように連なる、国分寺崖線の樹林は、調布市の緑のいわば背骨です。この樹林の近くには川や用水路、農地(畑と水田)、屋敷林、寺社林があり、それらが一体となって、武蔵野の里山をしのばせる景観をつくっています。また、緑と水がおりなす環境は、多様な生きものの生息の場となっています。最新の市民意識調査(平成26年)では「豊かな自然がある」が、「調布のまちなぎ」の魅力や個性・特色」の第2位です。



隣の元生産緑地で宅地開発が行われている崖線緑地

多くの市民が崖線を含む、調布の緑を大切に思っていることが分かります。

調布市でもこの緑をまもる様々な施策を実行してきました。例えば「緑の基本

計画」(平成23年改定)の基本方針1では「調布市らしい多様な緑をまもり、活用する」を掲げ、将来目標3で「武蔵野の面影を感じさせる樹林地や農地を可能な限り次世代に継承します」としています。

また、「緑の基本計画」の将来目標6では「市民と事業者と行政の協働による緑のまちづくり」の推進があげられ、実際に市民のボランティア団体と市が合意書を交わして、崖線樹林地保全活動協働事業を行ってきました。

近年にない大きな変化

こんなふうに、さまざまな手が打たれてきたのですが、最近、崖線の近くを含む市内各所で、これまで「緑」の重要な要素になってきた農地(生産緑地)が次々

と売りに出され、宅地開発が始まっているという話を聞くようになりました。

一例として、東部地区の崖線緑地では、隣接する生産緑地(これまではひと続きの森)で相続を機に宅地開発が行われ、

市民ボランティア団体が市との協働で保全作業を進めてきた緑地の一部(借地だった)も開発の対象になるといった事態が生じています。この緑地では、保全

団体や「ちゅうふ環境市民会議」が協力してつくった保全管理計画に基いて保全作業が行われていますが、開発によって緑地が大きく影響を受けるため、計画の見直しも必要になりそうです。

これまで都市化のなかで農地を守ってこられた世代が亡くなれば、東京周辺への人口集中現象や経済政策も関係して、近年にない、大きな変化が調布市の「緑」をめぐって起きているのではないのでしょうか。

同じ東部地区でも、NTT中央研修センターの崖線樹林が調布市に寄付され、緑地の公有地化が進んだという朗報もあります。ただ、その緑地の保全には、行政任せではない、市民や事業者の自主的な協力の拡大が必要です。

これからできること

このような最近の動きを受けて、「緑」をまもるための、もっと有効な制度や具体的施策が必要ではないか、という

意見を聞く事が多くなりました。何をすればよいのでしょうか。

調布市では近年、特定の地域を対象にした「深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」(平成26年)が策定され

ました。また都市緑地法に基づく、かなり強力な制度である特別緑地保全地区の指定が、仙川崖線緑地など3カ所で実現しました。目をお隣の世田谷区

に転じると、国分寺崖線保全整備条例があつて、崖線の緑の「保全と創出」策が手厚く行われているようです。

まもなく開催される第9回環境活動交流会では、このテーマにぴったりの学習会が企画されています。多くの方に参加していただき、一緒に考えたいと思います。(編集部)

次頁に関連記事

環境資源保全・活用基本計画が策定された
深大寺・佐須地域



東部地区の国分寺崖線を西側から見る。崖線樹林と野川の間に農地があるが、ここでも宅地開発が進んでいる。(© google)



© google

花の履歴書④

戸部英貞 (絵・文)

ホタルブクロ (蛍袋) キキョウ科



Campanula punctata

日本列島は南北に長く、南の沖縄諸島が梅雨入りし頃、北の北海道では、エゾヤマザクラが咲き、春が訪れる。この頃、列島中央の関東は春の花も終わり、新緑の初夏を迎え、水辺を彩るカキツバタやエゴの花が咲き、田植えが始まる。

農作業が終わって夕暮れが迫る頃、植えたばかりの稲田の上のあちこちに小さな光跡が流れる。ゲンジボタルだ！ とつさに手にしていた上着で払落し、畦道に咲いているホタルブクロの花がホタル籠となる。少し出来すぎた話だが、この花の名の語源だ。

残念ながらこんな経験はなかったが、一度は体験してみたいと憧れていた折、多摩丘陵の山間にゲンジボタルが発生する場所があると誘われ出かけた。谷合の小さな田の畦を歩くと、あちこちにホタルブクロが咲いていた。長年の夢が実現するかもと期待し数本の花を摘み、進むと、やがて田はなくなり、道は雑木林の中へと入って行った。林の中は落ち葉の積もった湿った

場所で、水の流れはほとんどなく、本場にホタルに出会えるのか不安な気持ちで、手にした花を水辺に挿し、ホタルの飛ぶ夕暮れを待った。

あたりが暗くなった頃、林の中に点滅光が見え、ホタルかと胸を躍らせたが、どれも月明かりが風に揺れる若葉の反射で、期待するホタルは現れず、諦めかかったころ、頭上にゆつくりと点滅する光が流れた。待ちに待ったホタルの出現に歓声を上げ、足元の悪さも顧みず田のあたりまで追つてくると、かなりの数のゲンジボタルがゆつくりと光を点滅させながら飛び交っていた。

早速一匹をとらえ、ホタルブクロの花に入れ、夜空に掲げてみた。花卉を通したホタルの点滅の度に輪郭がはっきり見え、ひと時の幻想的な世界を楽しんだ。

▼調布市内の雑木林でも、所々でホタルブクロが咲いています。今年は野草園のホタルは飛んでくれるでしょうか。(編集子)

街中にも自然のうるおい

現在開発が進む調布駅前広場ですが、1985年、広場に植栽されていたクスノキの周りにイスとテーブルが設置されたときのようすです。「くすのきサロン」と名付けられていたようです。

クスノキはご存知のように暖かい地方の樹で成長が早く、こんもりとした木陰を作る常緑樹です。

武蔵野の樹木でないのは残念ですが樟脳の元になる木としても知られ、病害虫に強く公害にも強いという街路樹に的した樹木です。

この写真の20年ほど前(1965年)には噴水も作られました。当時は、広々とした広場の真ん中に噴水があり、樹木の数は今よりずっと少なかったようです。

老朽化などの理由でしょうか、その噴水もいつのまにか撤去されてしまいました。



現在工事が進む駅前広場もぜひとも水と緑にあふれたうるおいのある駅前になりたいですね。(Nランドスケープデザイン象設計集団写真・像設計集団ホームページより)

調布あちこち

染地の多摩川団地

団地の建物の北側に初夏になると毎年咲く白いちいさな花、ずっと「ほかでは見えないな、なんとという名前なんだろかな」と思っていました。

この「調布の自然だより」の若葉の森の記事にササバギンランの写真がでていて、調べてみたら「ギンラン」だとわかりました。

一本だけしか咲かない年も



▼里山に咲く代表的な野生の蘭。近年個体数が極度に減ったようですが、団地の空き地に何故かこの蘭にふさわしい蘭根菌があるようです。(編集子)

第9回 環境活動交流会

学習会

「緑環境を守るために私達にできること」

* 国分寺崖線の緑地保全について
～世田谷区の事例から学ぶ～

講師：世田谷区みどりと水政策担当部
みどり政策課 岩崎係長

* 調布市の緑施策の現状報告
緑と公園課 代田課長

6月17日(土) 午後2時～4時

(受付：午後1時30分～)

たづくり2F 北ギャラリー



ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

4月16日(日) 晴れ 参加者13名

新しい参加者1人と久しぶりのメンバーも加わって林内巡回後、全員で方形桝調査4か所とシヤガの広場の植生調査を行った。ニリンソウの他ウラシマソウを初めて見た人には驚きだったようす。全体で21種の花、植生調査ではシヤガの広場45種、雑木林広場39種と多様性が確認できた。プチ違いはベニシダ・フモトシダ・イノデなど胞子囊の違いで同定。午後からは2丁目樹林地の観察会を行った。



ベニシダやフモトシダの小さな違いを観察

5月21日(土) 晴れ 参加者8名

真夏日。全員で雑木林広場の笹刈りを行った。毎年刈っているせいか柔らかく刈り易かった。入口のシラカシに初めてカラスの巣を確認、準備体操をしている私たちを威嚇していた。

一ヶ月の間に林内は葉が生い茂り暗くなっていたが、ガマズミ・エゴノキ・カキ、ドクダミ・フユサンゴ・トキワツユクサなどの花を確認した。(安部)



カニ山の会

4月8日(土) 雨 参加者5名

雨のため、たづくりみんなの広場で話し合い。お知らせが遅かったためか、5名のみの出席だった。

今年度のイベントのことや会員をふやすためにはどのようなPRが有効かなど意見交換。(鍛治)

5月13日(土) 雨 参加者7名

作業中止にしてもおかしくない位の雨だが、当日市役所前で開催されている「アイズデイ」で実施する「竹コップ作り」のために竹の伐り出しを行う。滑りやすい斜面に注意しながら2本を伐り出し運びやすいように断裁処理をする。

その後、東樹林からどんぐりの森まで巡回点検。スイカズラやガマズミの白い花が森の中で目立っている。ヤマユリはまだまだ幼いため、次回の作業時に囲いをする事を確認。どんぐりの森では昨年移植したケンボナシが4m近くにまで成長している事にビックリ。午後は市役所前に移動して「竹コップ作り」イベント手伝い。

(中原)

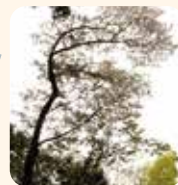


大きくなったケンボナシ

若葉の森3・1会

4月2日(日) 晴れ 参加者9名

前半は第1緑地でコンポスト補修と第1・第2緑地間通路落葉かき。全体にゴミ拾い。後半は第2緑地のキンラン・ギンラン育成地の保護柵を、伐採竹、杭・ロープで整備。なお、採集禁止看板「とらないで。移植できません」を後日開花時に設置。



山桜見納め?



竹製保護柵



ギンラン



21日後 ←



8日後 ← 4/2 キンラン芽生え

5月7日(日) 晴れ 参加者9名

今年もキンラン・ギンランの植生調査。昨年を上回る213株を確認。第1緑地では、ギンランが一昨年並みに咲いた。キンランも初めて確認。第2緑地はキンランのお花畑。保護柵の外の株は個別に囲い保護。第2緑地のシュロ・アオキを伐採。六別坂と緑地内通路の落葉掻き。

★第1緑地の一部(借地)と隣地で進む宅地開発で多数の樹木伐採の危機。(NOK)

凸凹森の会

2月25日(日) 晴れ 参加者9名

またもや増えてきたシュロの伐採。ミーティングの後はお土産にふきのとうやセイヨウカラシナを摘みました。

3月12日(日) 晴れ 参加者8名

特別活動で、三鷹の「星と森と絵本の家」の見学に行きました。文化財の建物がどのように生かされているのか、敷地内の保全の様子などを学んできました。剪定枝がクラフトの材料として生かされていたり、工夫が凝らされていました。*前記は4号自然だよりに載せられなかった分の掲載です。

4月23日(日) 晴れ 参加者11名

今年のタケノコ掘りはお休みです。毎年沢山掘ったので竹林の休養です。それでも新メンバーが入ってくれて、凸凹森の活動を楽しんでくれました。育てていたシイタケとフキとノビルがお土産。

(石原)



5月、まっすぐな綺麗な青竹が伸びて来ています。これを残し整理しながら美しい竹林を育てていくのが目標です。

5月20日(土)

雑木林ボランティア講座 16名出席

佐須ふれあいの家～野川～田んぼ～カニ山

今年度第1回目の雑木林ボランティア講座が開かれました。講師は地元の歴史に造詣が深く、造園デザインという仕事から緑地にも詳しい小林冬樹氏。

例年通りまずは雑木林の成り立ち。調布で農業をなりたいとしていた人たちがどのように雑木林の恵みを享受し、手入れを行ってきたのか、そのお陰で現在の樹林地が守られ残されたのかなどのお話を聞きました。



佐須用水を観察中、「野川で獲れた」という大きなモクズガニを持っている子に遭遇。事実ならびっくりです。



講座スタッフでもある田んぼの学校の尾辻氏から調布の米づくりについて説明を受ける。「ここで1年作業すれば米作りができるようになりますよ」



カニ山の樹林を観察。シデヤクヌギ・コナラが多い。この木が根本から何本にも分かれているのはマキなどにするため10～15年ごとに伐採していた名残です。

緑地の西側斜面の一部は、隣接するマンション建築により灌木と竹が切り払われ盛り土されました。今年この盛り土にハルジオオンが咲き乱れました。嬉しいやら悲しいやら。

嬉しいのは、昆虫の吸蜜場に変化した事です。蝶、蜂や甲虫が盛んに飛び回っています。ジャコウアゲハは3頭

同時に確認できました。悲しい事は、マンション側からのアクセスが良くなった事です。子供の日に二組の親子が採集ネットを持って蝶を追いながら難なく緑地に入ってきた。子供達はネットを振り回すうちに上手になり「クロアゲハを捕まえたよ」と歓声が聞こえます。「あつーやられたか」と気が気ではなりません。子供の成長には昆虫採集は必要だと思いい樹林内でやり過ぎていると、盛り土からまた歓声が聞こえます。我慢できなくなり「どんな蝶を捕ったの?」と採集カゴを見せてもらいました。ジャコウアゲハ、キタキチョウ、ツマグロヒヨウモンが入っていました。親子に、黒い蝶はジャコウアゲハである事、ここで毎年蝶のカウントをしている事、蝶を標本にしたら来年は見られないかもしれないし蝶も人間と同じく

懸命に生きている事を説明して「良く観察したら逃がしてね」と言っておきました。

親子は、緑地で遊んだあと帰りがけに蝶をリリースしてくれました。一安心です。一人が一匹だけと採集したら10人で10匹になってしまいます。この緑地を昆虫のサンクチュアリにしたいと思いました。尚、5月4日の時点で、キンランは104株ギンランは74株だった事報告します。

衛藤 譲二



ジャコウアゲハ 真上からと横から



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 6/18 (日) 9:30～12:30
- 7/15 (土) 9:30～12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 6/10 (土) 10:00～15:00
- 7/8 (土) 10:00～15:00

※原則、奇数月は3時までですが状況で時間変更があります。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6/11 (日) 9:30～12:00
- 7/9 (日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6/4 (日) 9:30～12:00
- 7/2 (日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田屋線緑地で保全活動をしています。

- 6/25 (日) 9:30～11:30
- 7/16 (日) 9:30～11:30
- 7/23 (日) 9:30～13:00

先ず5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083へ

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円
郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆